

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
日本電子専門学校		昭和51年9月10日		杉浦 敦司		〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人電子学園		昭和38年12月17日		多 忠貴		〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	情報処理科		平成 6(1994)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的		基本的なシステム開発技術から応用的な開発技術までを学び、多様化する業務アプリケーション開発の技術・知識を持った情報処理技術者を育成する。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		【取得可能な資格】 ITパスポート／基本情報技術者／応用情報技術者／Microsoft Office Specialist(MOS)／オラクル認定Javaプログラマー(OCJ-P)／情報検定(J検)／Microsoft Azure認定資格 【在学の状況】 令和6年4月1日時点において、在学者352名(令和6年4月1日入学者を含む) 令和7年3月31日時点において、在学者330名(令和7年3月31日卒業生を含む)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,710 単位時間	480 単位時間	0 単位時間	1,590 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
280 人	355 人	121 人		34 %	6 %			
就職等の状況	■卒業者数(C) : 158 人							
	■就職希望者数(D) : 155 人							
	■就職者数(E) : 153 人							
	■地元就職者数(F) : 153 人							
	■就職率(E/D) : 99 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 100 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 97 %							
	■進学者数 : 1 人							
	■その他							
	就職指導の体制は、キャリアセンターが、業界の求人獲得に努め、合同企業説明会や校内入社試験を実施している。各クラス担当のキャリアサポーターとクラス担任を中心とした、組織的な学生指導体制による就職指導を行っている。 (令和 6 年度卒業生に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:有 ※有の場合、例えば以下について任意記載							
	評価団体: 特定非営利活動法人 職業教育評価機構	受審年月: 令和5年3月31日		評価結果を掲載したホームページURL	https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation/			
当該学科のホームページURL	https://www.jec.ac.jp/course/it/jn/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数				2,070 単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				240 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間			
	うち必修授業時数				1,710 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				240 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間			
	(B:単位数による算定)							
	総授業時数				単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位			
	うち必修授業時数				単位			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				3 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				4 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				3 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人			
	計				10 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				5 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は、卒業生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、本校の専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善・工夫等を行うなど、専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するための検討課題を協議・検討することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育の管理部署(教育部、教務部)と各学科に対して中立的な位置付けとし、実践的な教育を行うために、経営や教育現場からの制約を受けない自由な検討が行えるものとする。

尚、教育課程の編成については、以下の過程に基づいて決定する。

- ① 学科教員により、今後の教育課程について検討し改善案を作成する。
  - ② 教育課程編成委員会にて、学科からの改善案について各委員の専門的知見に基づく意見を伺う。
  - ③ 教育課程編成委員会での意見を踏まえ、学科長及び教育部長を中心に最終案を作成し、校長の決裁で決定する。
  - ④ 次の教育課程編成委員会にて、最終決定した教育課程を各委員へ報告する。
- 上記の教育課程を決定する過程については、学校関係者評価委員会においても報告・評価の対象とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
成井 弦	特定非営利活動法人エルピーアイジャパン	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	①
田中 大介	株式会社アドービジネスコンサルタント	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
杉浦 敦司	日本電子専門学校 校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	
大川 晃一	日本電子専門学校 エンジニア教育 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	
高橋 陽介	日本電子専門学校 学事部 部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	
井上 直樹	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	
蓮見 圭亮	日本電子専門学校 情報処理科 学科長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会は、原則として学期の切り替え時期(9月)及び、年度末(3月)の年2回は、必ず開催する。また、業界動向の変化や学科の状況等により、必要性に応じて適宜開催する。

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月5日 14:00 ～16:00 開催

第2回 令和7年3月13日 14:00 ～16:00 開催

## (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

### 【議題1】

学科では2年次に6つの選択科目を設け、学生の興味や習熟度に応じた専門的な学習ができるカリキュラムを整備しています。これにより、学生が自身のキャリアに適した知識と技術を深め、実践的なスキルを修得することで、即戦力として活躍できる人材の育成を目指しています。

現在、プログラミングが苦手な学生向けに「Officeスペシャリスト」および「データベースシステム開発」の科目を開講しております。ただし、「Officeスペシャリスト」はMOS資格取得を目指すExcelの学習が中心であり、プログラミング学習は含まれておりません。また、「データベースシステム開発」ではAccessの使用がメインであり、VBマクロの学習が一部あるだけに留まっております。学科としては、プログラマの育成を目標に掲げているため、プログラミング要素の少ないこれらの科目については再検討の余地があると考えております。特に、近年は開発現場でノーコード/ローコード開発の採用が増えていることから、プログラミングが苦手な学生を対象とした新しい選択科目の作成を検討しています。

ただし、企業によっては引き続き MOS 資格の取得が求められる場合や、Access の VB マクロが重要視される場合も考えられるため、現行科目をそのまま残すべきかについてご意見を頂きますと幸いです。また、選択科目のラインナップを見ていただき、新たな選択科目の提案などがありましたら併せてご意見を頂けますと幸いです。

### 【意見】

・Excelは現場でも重要であり、MOSも取得者に対しては一定の評価はする。そのため、Officeスペシャリスト科目よりかはデータベースシステム開発科目をどうするかを考えるほうが重要ではないか。プログラミングができない学生が対象ということなので、データ分析やグラフ加工など現場にあるようなデータの活用に関する科目などが考えられるのではないかと。また、データサイエンスやノーコード/ローコードに限らず、より現場に近い実践的な科目を検討する必要があると思う。

・ノーコード/ローコード開発ではMicrosoft Power AppsやMicrosoft 365に付随するツールであれば、学生のレベルともマッチし、現場でも使われる技術であるため、良いのではないかと。また、COBOLエンジニアが少なくなってきたり現場でのニーズも高いことから、プログラムが苦手な学生に対してピンポイントにCOBOLを学習させることも考えられるのではないかと。

・ノーコード/ローコード開発の開発事例はあるが、あくまでプログラムを書けることが前提であり、その開発スパンを短くするために活用されるものであるため、その部分単体だけでは難しいところがあると考えられる。業務知識や要件定義などが重要であり、そういったものを授業で行う必要があるが、それとプログラミングが苦手な学生と内容がマッチするかどうかという点で悩ましい部分がある。もし、ノーコード/ローコードを授業で採用することであれば、サイボウズのkintoneなども良いと思われる。

### 【活用】

頂いたご意見を元に、Microsoft Power AppsやMicrosoft 365に付随するツールを中心にノーコード/ローコード開発の科目検討、現行科目のブラッシュアップを行ってまいります。

## 2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

多様化する業務系アプリケーション開発の技術・知識を持った情報処理技術者を育成するため、科目:「システム設計演習」・「卒業制作」において、連携する情報処理システム企業(4社)より、目標提示ならびに評価・指導を受けることを基本方針とする。

### (2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生は在学期間中に得た2年間の知識・技術の集大成ならびに連携している情報処理システム企業(クアトロシステム、他3社)より受けた開発するシステム(作品)の目標提示をもとに、それらに沿ったシステム(作品)を開発する。システム(作品)の開発段階において、中間評価と指導内容をもとに修正等を反映し、最終的に評価と順位を付ける。

### (3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
システム設計演習	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当 情報処理システムの企画から、設計・開発、テスト、運用までの概要をいくつかの演習テーマをもとに学習し、情報処理システムを構築するために必要なシステム設計技術を修得します。また、後半では2年間の集大成として、科目:卒業制作で開発するシステムのテーマを決める。	株式会社クアトロシステム 株式会社ライテック 株式会社アーキテクトコア 株式会社東京技術計算コンサルタント
卒業制作	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当 科目:システム設計演習で決定したテーマをもとにシステムの計画・設計・開発および運用の各工程を実践的に経験し、システムを構築する。	

## 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

### (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学校関係者評価委員会の分野別分科会ならびに教育課程編成委員会の見解や検討内容の他、情報処理業界の動向をもとに、現在教員に不足している知識、技術、技能に関する研修や教育的資質に関する研修を教員研修規定に則って実施する。これまでは、研修業者が主催するIT技術に特化した研修に参加していたが、今後は更に連携する情報処理システム企業や団体から講師を招き、最新の技術・知識を習得するための研修を計画し、授業への展開やオリジナル教材等にも反映させることを基本方針とする。

## (2) 研修等の実績

### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Pythonプログラミング2 オブジェクト指向編	連携企業等:	トレノケート
期間:	令和6年9月2日	対象:	学科教員
内容	汎用的なプログラムを書けるようになるために必要なオブジェクト指向プログラミングの基礎を学習する。		
研修名:	jQueryによるWebアプリケーション開発	連携企業等:	富士通ラーニングメディア
期間:	令和6年9月9,10日	対象:	学科教員
内容	jQueryによるHTMLの操作やイベントリスナーの設定方法を学習し、対話型Webアプリケーション(ユーザーの操作に応じて動的にページの一部を書き換えて処理を進めていくWebアプリケーション)を作成する。また、Ajaxの手法を用いた非同期通信を学習し、ユーザーの操作と並行して処理を行い、ユーザーの待機時間を減らせるWebアプリケーションを作成する。		
研修名:	AI技術初級	連携企業等:	エディフィストラーニング
期間:	令和7年2月25～27日	対象:	学科教員
内容	AIプロジェクトにメンバーとして参画するための必須スキルの習得として、「AI(人工知能)に関する基礎知識」、「Pythonプログラミング」、「AIモデルを作成」、「アプリケーションとAIモデルの連携」について学習する。		
研修名:	3つのアプリを作りながらJetpack Composeでのアプリ開発の基礎をマスター	連携企業等:	Udemy business
期間:	令和7年3月11,12日	対象:	学科教員
内容	Jetpack Composeを用いたAndroidアプリ開発の基礎を習得する。「Jetpack ComposeでのUI作成」、「ViewModelを用いたデータ管理」、「Roomでのデータベース操作」、「Hiltを使用した依存注入」を実践的に学び、自己紹介アプリ、BMI計算アプリ、Todoリストアプリなどの開発を通じて、Androidアプリ開発スキルを身につける。		
研修名:	IoT・クラウド連携ハンズオンセミナー	連携企業等:	全国専門学校電気電子教育研究会
期間:	令和7年3月28日	対象:	学科教員
内容	ハンズオン形式で、IoTデバイスを操作するためにプログラミングの基礎知識(C言語)を学びながら、マイコンとPCを用いた【センシングしたデータをクラウド連携し、利活用するシステム】を開発する。開発環境としてマイコンには【ESP32】を、プログラミング言語はC++、センシングには人感センサー、圧力センサーなど各種センサーを用いる。		
研修名:	生成AIの教科書 -ChatGPTの活用法、導入方法、トレンド、事例、DXとの関係まで完全網羅	連携企業等:	株式会社ベネッセコーポレーション
期間:	令和7年3月28日～4月2日	対象:	学科教員
内容	ChatGPTなどの生成AIの基礎から実践まで徹底的に学べる教科書的な講座であり、活用方法から応用、DXとの関係性やキャリアへの影響まで網羅。同講座を学習することで、教員の生成AIの活用方法の発見や、プログラマーが身に付けるべきプロンプトエンジニアリングの基礎を学び、問題解決技法科目における新規課題の作成や学科における生成AIの有効活用方法について議論を深めることができる。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	「教授法研修」	連携企業等:	株式会社ビーフォーシー
期間:	令和6年8月7・9日	対象:	新人教員
内容	教授する際に必要なスキル項目に沿って、対人スキルとして「話法」のスキルを身に付け、教授法の重要性を理解する。		
研修名:	「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等:	株式会社ウチダ人材開発センタ
期間:	令和6年8月20日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「中退者を出さない基盤づくりノウハウ」	連携企業等:	株式会社Weness
期間:	令和6年8月29日	対象:	全教員
内容	『教員が疲弊しない』中退防止法を考察する。		

研修名:	「高校生を取り巻く入試環境とこれからの入学生に求められる学生指導とは」	連携企業等:	専門学校コンソーシアムTokyo
期間:	令和6年9月19日	対象:	全教員
内容	データから見る入試環境と専門学校進学者層への影響と新入生の実態と効果的な指導を理解する。		
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	IoT・AI入門【Raspberry Piとセンサーで作ろう】	連携企業等:	トレノケート
期間:	令和7年9月5日	対象:	学科教員
内容	IoTの概要を理解するとともにIoTセンサーを活用し、AI、機械学習、Deep Learning概要を理解する。		
研修名:	機械学習実践コース	連携企業等:	エディフィストラニング
期間:	令和7年9月10～12日	対象:	学科教員
内容	データ分析の基礎と機械学習の実装方法、ケースに応じた手法の選択と評価指標を用いた判断、データから課題を見出し、解決するためのアプローチを学習する。		
研修名:	Spring Boot入門 ～サーバーレット&JSPからのステップアップ～	連携企業等:	トレノケート
期間:	令和7年9月16～18日	対象:	学科教員
内容	JavaでのWeb開発におけるフレームワークとして人気のSpring Bootの基本的な使い方を学習する。		
研修名:	SpringによるWebアプリケーション開発(基礎編)	連携企業等:	富士通ラーニングメディア
期間:	令和7年9月17日	対象:	学科教員
内容	DI・AOPの基礎からSpring MVC、MyBatisとの連携まで実践的な例題と実習で学習する。		
研修名:	作りながら学ぶIoT -Raspberry Pi編-	連携企業等:	NECビジネスインテリジェンス
期間:	令和7年中	対象:	学科教員
内容	Raspberry Pi を利用し、IoT制御の開発、開発したアプリとクラウドとの連携を体験する。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	「教授法研修」	連携企業等:	株式会社ビーフォーシー
期間:	令和7年8月20・22日	対象:	新任教員
内容	教授する際に必要なスキル項目に沿って、対人スキルとして「話法」のスキルを身に付け、教授法の重要性を理解する。		
研修名:	「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等:	株式会社ウチダ人材開発センタ
期間:	令和7年8月8日	対象:	新任教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「卒業生調査の分析結果」	連携企業等:	株式会社応用社会心理学研究所
期間:	令和7年8月28日	対象:	全教職員
内容	卒業生調査の分析結果から、本校の課題を明らかにすると共に対策を検討する。		
研修名:	学校教育法等の改正に伴う各専修学校における対応	連携企業等:	専門学校コンソーシアムTokyo
期間:	令和7年9月18日	対象:	全教職員
内容	令和8年4月施行の学校教育法の改正ポイントを理解する。		
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1)学校関係者評価の基本方針			
本校では、卒業生、保護者、高等学校教員、IT分野関連団体・IT関連企業等、本校の関係者を評価委員として、学校関係者評価委員会(以下、評価委員会という)を組織する評価委員会では、本校自己評価報告書にもとづき、学校の運営状況や情報処理科の教育状況、目標達成度、進路状況、卒業生の情報処理業界での活躍等、教育活動に関する自己評価結果を報告する。評価委員より、自己評価結果の評価を受け、自己評価結果の妥当性客観性・透明性を高めるとともに、情報処理科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図ることを基本方針とする。			

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像の周知、職業教育の特色、将来構想、学科教育目標
(2)学校運営	運営方針、事業計画、組織・意思決定機能、人事規程、教育活動の成果公開、情報システム化
(3)教育活動	教育目標・教育人材像、教育達成レベル、実践的なカリキュラム、業界関連科目目標、キャリア教育、授業評価、職業教育、教員確保・育成、成績・単位基準、資格指導体制
(4)学修成果	就職率、資格取得、ドロップアウト対策、卒業生・在校生の活躍、キャリア形成と教育改善
(5)学生支援	就職指導体制、学生相談体制、学費支援体制、学生生活・健康管理、課外活動支援、父母会、卒業生支援、関連分野と業界関係
(6)教育環境	施設設備環境の維持・向上、学外実習・インターンシップ・海外研修体制、防災訓練
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、教育成果の公表、入学選考、学納金、資格・就職情報公開
(8)財務	中・長期財務計画、予算・決算・収支計画、定期的な会計監査、事業(財務)情報公開
(9)法令等の遵守	法令・設置基準の遵守、個人情報保護、自己点検・評価、自己評価・第三者評価の公開
(10)社会貢献・地域貢献	学校施設の教育資源の貢献、学生ボランティア活動支援
(11)国際交流	留学生の受け入れ戦略、留学生の在籍管理と手続き、留学生の学修・生活支援体制、学習成果の発表

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

コロナ禍後に退学率が上昇したことに対して、組織的な対応の必要性について意見を頂いた。コロナ禍により日常のコミュニケーション機会が失われたことが理由の一つと考えられることから、令和6年度は次の取組みを行った。

外部講師を招き、「中退者を出さない基盤づくりノウハウ」というテーマで、組織的な学生対応に関する全体研修会を実施した。また、キャリアセンターを中心に個別対応の充実を図り、個別面談の機会を増やす取組みを行った。結果として、前年よりも学校全体の退学率の低減に繋げることができた。

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
鈴木 周祐	株式会社スタジオぴえろ	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業
後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業
佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業
伊藤 好宏	JTP株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業
舟山 大器	一般社団法人 日本PVプランナー協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
宮内 舞	CG-ARTS 公益財団法人画像情報教育振興協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
中野 正	一般社団法人ソフトウェア協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
西郷 直紀	東京商工会議所新宿支部	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	職能団体
品田 健	聖徳学園中学・高等学校	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	高校教員等
横田 えりか	株式会社ウィザス	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	高校教員等
亀田 亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	日本語学校
谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	卒業生
大曾根 良孝		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	卒業生
原田 識義	百人町西町会	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	地域住民
高橋 美登里		令和5年5月1日～ 令和8年3月31日(3年)	父母
岸本 美香		令和5年5月1日～ 令和8年3月31日(3年)	父母
岡本 忠司		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	父母
田野 滋子		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	父母
森 清子		令和7年4月1日～ 令和10年3月31日(3年)	父母
下園 紗月		令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	在学生
森下 晴紀		令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	在学生
岩永 礼矢		令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	在学生
伊藤 凜		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	在学生
小倉 昊太郎		令和7年4月1日～ 令和10年3月31日(3年)	在学生
葛巻 沙織		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	在学生
埜村 萌花		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	在学生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/stakeholder-assessment/>

公表時期: 毎年10月1日に更新

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

理念・育成人材像といった教育的目標から施設設備・財務状況といった学校運営に至るまでの情報をホームページや入学案内書などの冊子に掲載するとともに、情報処理科の教育成果として、学園祭の学科展示などに広く来場を促すなど、在校生・保護者、高等学校、卒業生が活躍する企業・業界、学校近隣の住民など、関係者の理解を深め連携及び協力の促進に資するために、積極的に情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	本校について、教育理念、校長名、沿革
(2)各学科等の教育	学科紹介、カリキュラム、時間割
(3)教職員	組織図、教職員人数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育の仕組み、キャリア教育、産学連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、エクステンションプログラム、施設
(6)学生の生活支援	就職サポート、学生寮
(7)学生納付金・修学支援	学費サポート、納付金・時期、独自の奨学金制度
(8)学校の財務	貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	自己点検評価、学校関係者評価、第三者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <https://www.jec.ac.jp/>

公表時期: 毎年4月に更新



授業科目等の概要

(工業専門課程 情報処理科) 令和7年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ハードウェア・ソフトウェア	コンピュータの構成要素や内部における数値表現、各装置の役割、入出力インタフェースの種類などについて学習します。また、コンピュータを使う上で必要とされるOSなどのソフトウェアについても学習します。	1前	90		○			○		○	○	
2	○			ネットワーク＆セキュリティⅠ	データ通信、通信ネットワークの役割、イントラネットの構築・運用に必要な技術学習します。	1前	30		○			○		○		
3	○			ネットワーク＆セキュリティⅡ	IT業界で必要とされているセキュリティの技術について学習します。	1後	30		○			○		○		
4	○			ITストラテジ＆ITマネジメント	ITパスポート試験に対応したシステム戦略・経営戦略・IT業界のプロジェクト管理・マネジメントなどを中心に学習します。	1前	30		○			○			○	
5	○			L i n u x	サーバーOSとして業界標準であるLinuxの基本的な知識や操作について実習を通して学習します。	2後	60		△		○	○		○	○	
6	○			クラウド技術	業界標準となりつつあるクラウドコンピューティング技術をクラウド環境構築の実習を通して学習します。	2後	60		△		○	○		○	○	
7	○			問題解決技法	社会人として必要不可欠な問題発見から解決策の合意までワークと演習で学習します。	2後	60		○			○		○		
8	○			アルゴリズム	基本情報技術者試験対策として擬似言語によるアルゴリズムの表し方など、例題をもとに学習します。	1後	30		○			○		○		
9	○			プログラミングⅠ	基本情報技術者試験対策として、アルゴリズムに沿ったプログラミングの基本から応用までを実習で確認しながら学習します。	1前	150		△		○	○		○	○	
10	○			プログラミングⅡ	実務プログラミングで最も使用され応用範囲も広いJ a v a言語を使ったオブジェクト指向プログラミングを学習します。	1後	120		△		○	○		○	○	
11	○			プログラミングⅢ	マルチスレッド、コレクション、W e bなどJavaが持つ豊富な応用機能活用した現実的なプログラム開発技法を学習します。	2前	120		△		○	○		○	○	

12	○		Windows プログラミング	VisualStudioを使ってオブジェクト指向 にもとづくプログラム開発技術（画面デザ イン、コントロール、ファイル操作、デー タベース操作）を学習します。	1 後	120		△		○	○		○	○	
13	○		Web基礎	HTML、CSSなどWebアプリケーション開発 に必要な知識と技術について実習で確認し ながら学習します。	1 後	30				○	○			○	
14	○		Webプログラ ミング	PHPをもとにサーバとクライアントの関 係について学習し、PHPの基本文法とPHP特 有のWeb技術、データベースを利用したア プリケーションの構築について、練習問題 と実習課題のプログラミングと実行を通し て修得します。	2 前	120		△		○	○		○	○	
15		○	Webサービ ス開発	JavaScriptやjQueryなどWebアプリケー ションにおけるクライアントサイドのプロ グラム開発技法を学習します。	2 前	90		△		○	○		○		
16		○	IoTプログラ ミング	IoTを意識した機械制御のプログラムを 学習します。各種センサー等のしくみにつ いても学習します。	2 前	90		△		○	○		○		
17		○	アプリケー ションプログラ ミング	業務アプリケーション開発に必要な知識 と技術について、実例をもとに学習しま す。	2 後	90		△		○	○		○		
18		○	モバイルアプ リケーション	近年ビジネスシーンで活用されることが 多くなったタブレット上で動作する実務プ ログラムの開発技法を学習します。	2 後	90		△		○	○		○		
19	○		システム設計 演習	情報処理システムの企画から、設計・開 発、テスト、運用までの概要をいくつかの 演習テーマをもとに学習し、情報処理シ ステムを構築するために必要なシステム設計 技術を修得します。また、後半では2年間 の集大成として、科目：卒業制作で開発す るシステムのテーマを決定します。	2 前	60		△		○	○		○		○
20	○		SQL	データベースの機能、データの正規化、 リレーショナルデータベース用言語：SQL について、実習を通して学習します。	1 前	60		○		△	○		○		
21		○	データベース システム開発	基本オブジェクトの作成、データ設計、 商品売上システムなどの開発を、マイクロ ソフト社のAccessを使って実践的な技術と して学習します。	2 後	90		△		○	○		○	○	
22	○		データベース 設計	システム開発者に必要なデータベースの 設計技術を、事例をもとに学習します。	2 前	30		○			○		○		
23	○		卒業制作	科目：システム設計演習で決定したテー マをもとにシステムの計画・設計・開発お よび運用の各工程を実践的に経験し、シ ステムを構築する。	2 後	180				○	○		○	○	○
24		○	Office スペシャリス ト	マイクロソフト社のビジネスソフト： Excelを利用した実務レベルの操作を学習 します。また、MOS検定試験の合格も目 指します。	2 前	90		△		○	○		○	○	

25	○		資格対策講座 Ⅰ	ITパスポート、及び基本情報技術者の合格を目指す科目です。テーマ毎に問題を解きながら解説を行い、理解していきます。また、定期的に模擬問題などを実施し、詳細な分析をもとに弱点を克服します。	1 前	30		○			○		○	○	
26	○		資格対策講座 Ⅱ	基本情報技術者試験の科目B試験を中心に模擬問題の実施・解説を繰り返しながら授業を行います。	1 後	60		○			○		○	○	
27	○		就 職 リ テ ラ シー	就職活動で必ず行われる書類審査や面接などに備え、万全の準備を行うワークショップ。ワークシートやグループワークを利用した体験型学習で、楽しみながら就職活動の準備を行います。	1 後	30		○			○			○	
28	○		コンピューター リテラシー	業務等で必要となる知識として、マイクロソフト社のWord・Excel・PowerPointの使い方について例題をもとに実習形式で操作を学習します。また、Web関連のシステム開発で必要とされるHTMLの基本を学習します。	1 前	30					○	○			○
合計					28	科目	2070 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で「可」以上		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学科・クラス毎に定められた時間割に則って履修する。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。